

## 【タイプA】研究協力型

広島大学の研究者との連携により学術的な研究や新たな技術・ノウハウの開発等を希望される場合です。

### 事例：かんきつプロジェクト

平成16年度、旧瀬戸田町から「シトラスパーク瀬戸田に集められた世界のカンキツ類約600種の遺伝資源の活用」について提案されたものです。理学研究科の平田敏文教授のグループが研究を行った結果、一部の品種に有用な成分が認められました。これを受けて、瀬戸田町（現尾道市）等との共同研究を継続し、2品種の果皮に肥満抑制効果のある成分を含むことを突き止め、引き続き、尾道市や県内の食品メーカー等が参加する「カンキツヘルスケア食品開発研究会」で商品化を目指した結果、平成21年度に尾道市（因島）原産のハッサクを使用して、食品会社3社（株式会社にしき堂、アヲハタ株式会社、今岡製菓株式会社）が開発した商品を発売しました。地域貢献研究をきっかけとして商品化につながった事例です。



芳香成分の分析



開発商品のプレス発表

## 【タイプB】地域協働型

地域の問題解決のために地域で取り込まれる活動に、教職員・学生の参加、協働等を希望される場合です。

### 事例：黒瀬川ホテル復活プロジェクト

平成21年度、東広島市内の市民グループから「黒瀬川にホテルを復活させるための活動」について提案されたものです。総合科学研究科の佐々木晶子助教が中心となって、提案地域の自治組織や母親グループ、幼稚園等に呼びかけ、住民参加によりホテルの分布調査を実施しました。また、この活動に併せて3回のワークショップを開催し、地域の環境や生物のこについて学習しました。その成果として、活動結果をまとめた「寺家地区ホテルマップ2009」を作成するとともに、公開シンポジウムで発表しました。なお、平成22年度以降も、地域の皆さんの自主的な活動として継続され、本学の教員・学生も参加しています。



ホテルマップ



ワークショップ